

図表で見るLCC(4~6月国内線実績より) - 3 -

1. LCCの参入状況によって国内線の路線を4分類し、夫々についてLCCのシェア(食込み状況)を眺めてみた。

- (1) 成田LCC路線(成田=札幌等)と羽田発の対応路線(羽田=札幌等)
- (2) 中部LCC路線(中部=札幌等)
- (3) 関西LCC路線(関西=札幌等)と伊丹・神戸発の対応路線(伊丹=札幌等)
- (4) LCCが参入していない路線

① 成田LCC路線とその対応路線；

(成田=札幌、福岡、沖縄、関西、松山、大分、鹿児島)
羽田=札幌、福岡、沖縄、関西、神戸、松山、大分、鹿児島

国内線旅客数の約42%を占めている。(4-6月で862万人)
そのうちLCCは約6%(約50万人)を占めている。
市場は大きい、LCCの食込みはまだ小さいといえる。

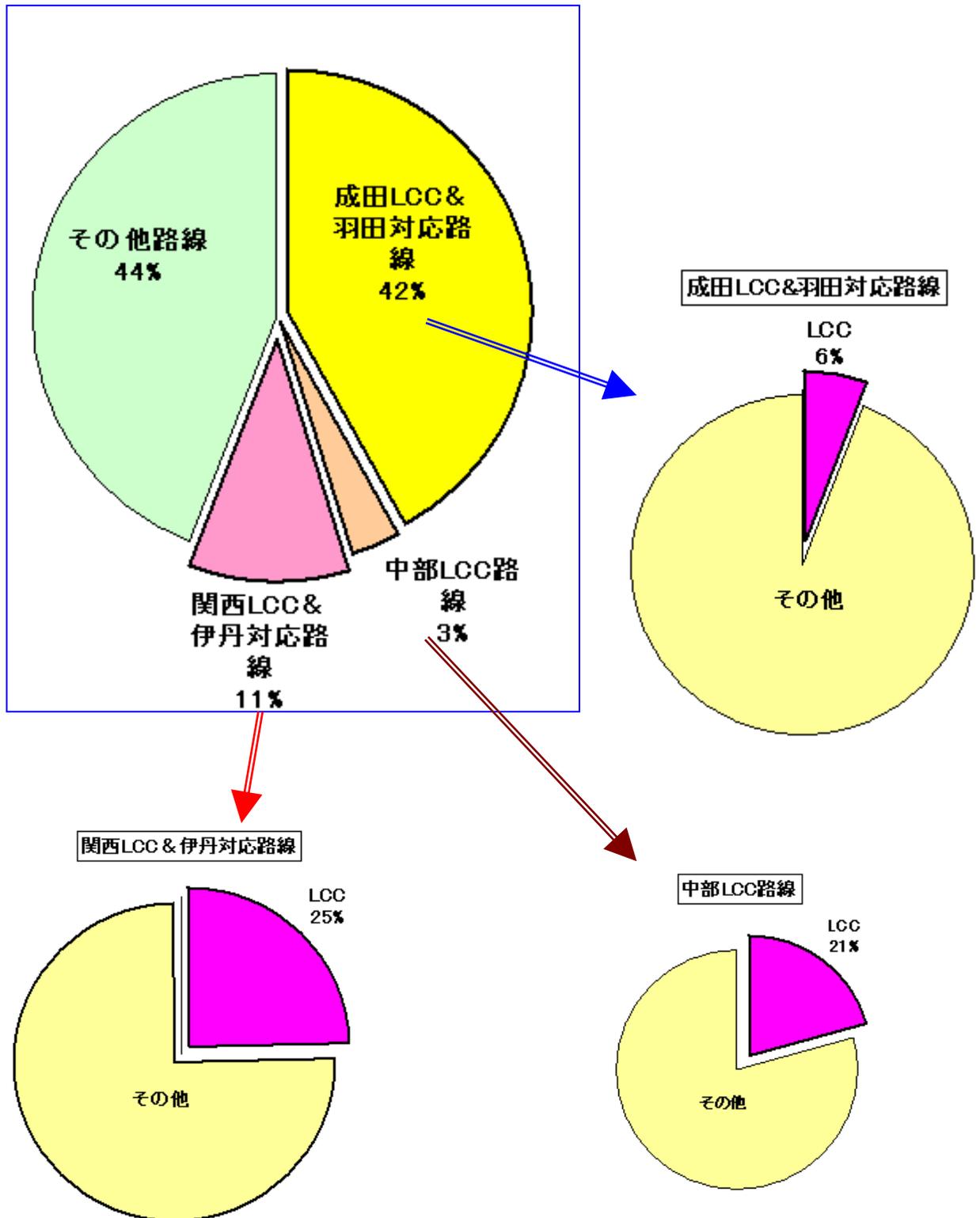
② 中部LCC路線；中部=札幌、福岡、鹿児島、成田(夏期運航)

国内線旅客数の約3%(約66万人)を占めている。
そのうちLCCは21%(約14万人)を占めている。
市場は小さい、その路線ではLCCは約2割まで食込んでいる。

③ 関西LCC路線とその対応路線；

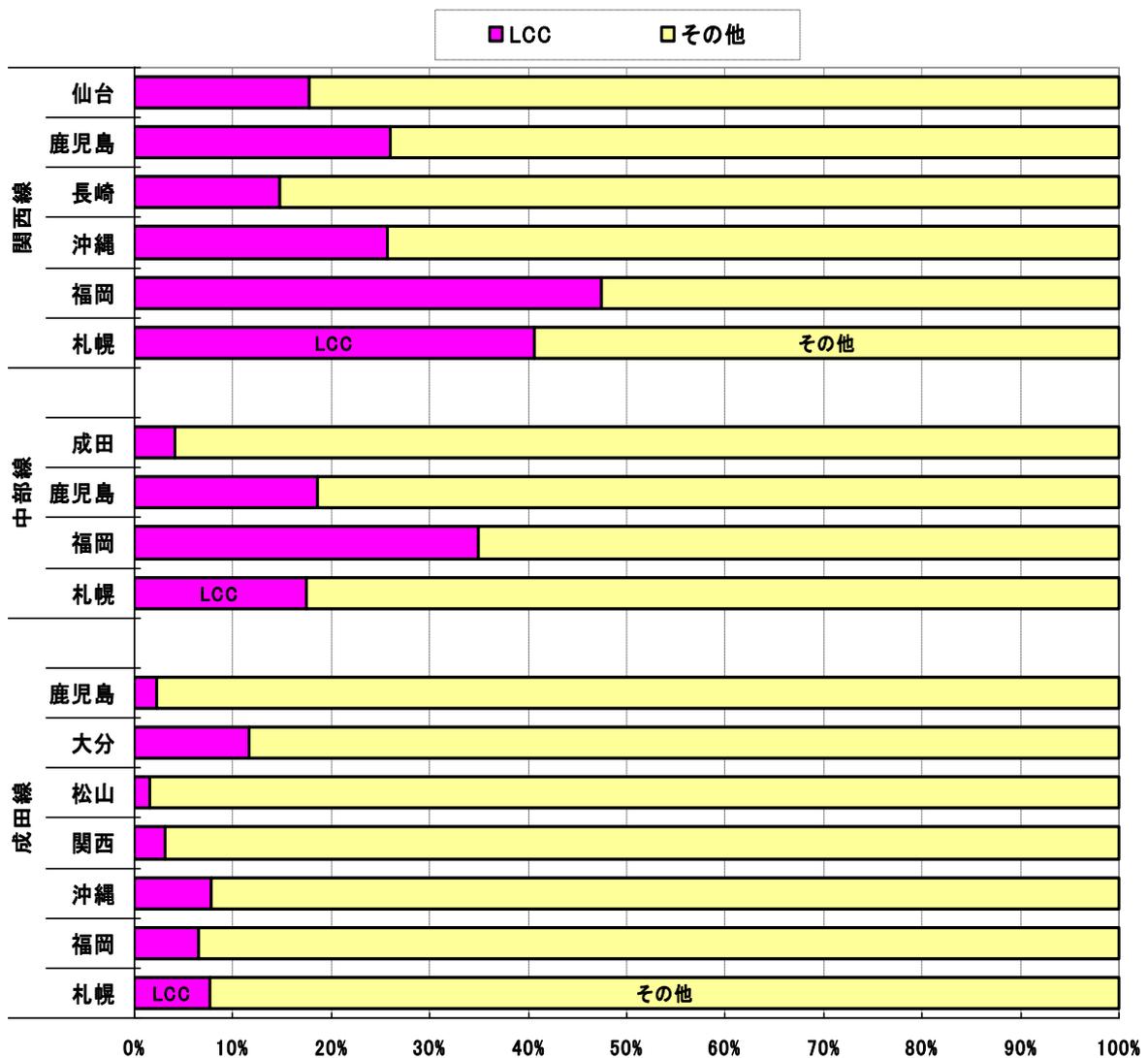
(関西=札幌、福岡、沖縄、長崎、鹿児島、仙台、石垣)
(伊丹・神戸=札幌、福岡、沖縄、長崎、鹿児島、仙台)

国内線旅客数の約11%を占めている。
そのうちLCCは4分の1まで食込んでいる。
市場はかなり大きく、LCCの食込みも大きいといえよう。



2. 上述の3路線について、更に細かい個別の路線単位でLCCのシェア(食込み状況)をみたのが下図である。

- ① 成田LCCとその対応路線；各路線とものLCCシェアは低く、最も高い大分線で約12%、札幌、福岡、沖縄線で6~8%。
- ② 中部LCC路線；福岡線は3分の1を超え、札幌、鹿児島線は2割弱。
- ③ 関西LCCとその対応路線；福岡線では約半分のシェア、札幌線も4割を超える。沖縄、鹿児島も約4分の1を占める。

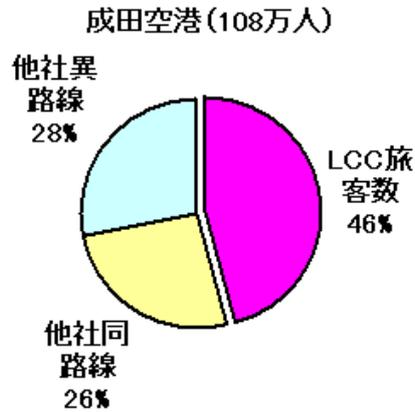


3. 成田、中部、関西の国内線発着旅客数に対して、

- ・ LCCの旅客数が占める割合、
- ・ 既存会社がLCC競合路線で得ている旅客数の割合、
- ・ そしてLCC路線以外の旅客数の割合をみた。
(データソースが異なるため、結果にも多少の誤差を含んで解釈する必要がある)

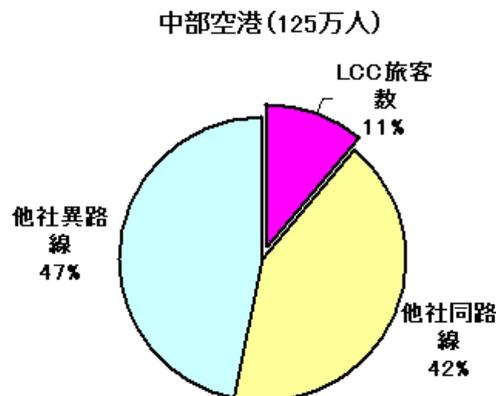
① 成田空港での国内線発着旅客数(108万人)に対する割合；

- ・ LCCは46% (約50万人) を占める
- ・ 既存会社の、LCCと競合する路線の旅客数は約28万人で26%



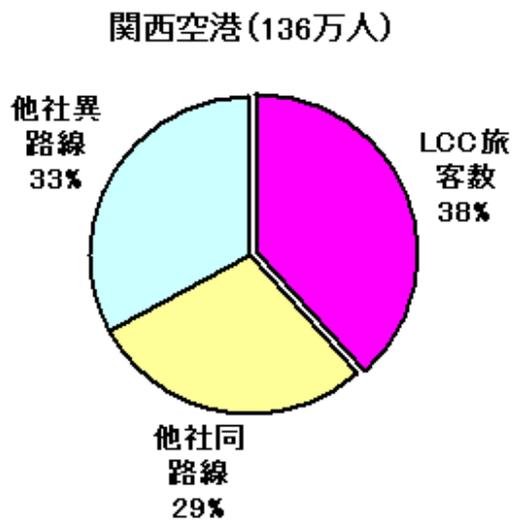
② 中部空港での国内線発着旅客数(125万人)に対する割合；

- ・ LCCは約11% (約14万人)、既存会社の競合路線旅客は42% (約52万人)



③ 関西空港での国内線発着旅客数(136万人)に対する割合；

- ・ LCCは約38%（約52万人）、既存会社の競合路線旅客は29%（約39万人）



以上